



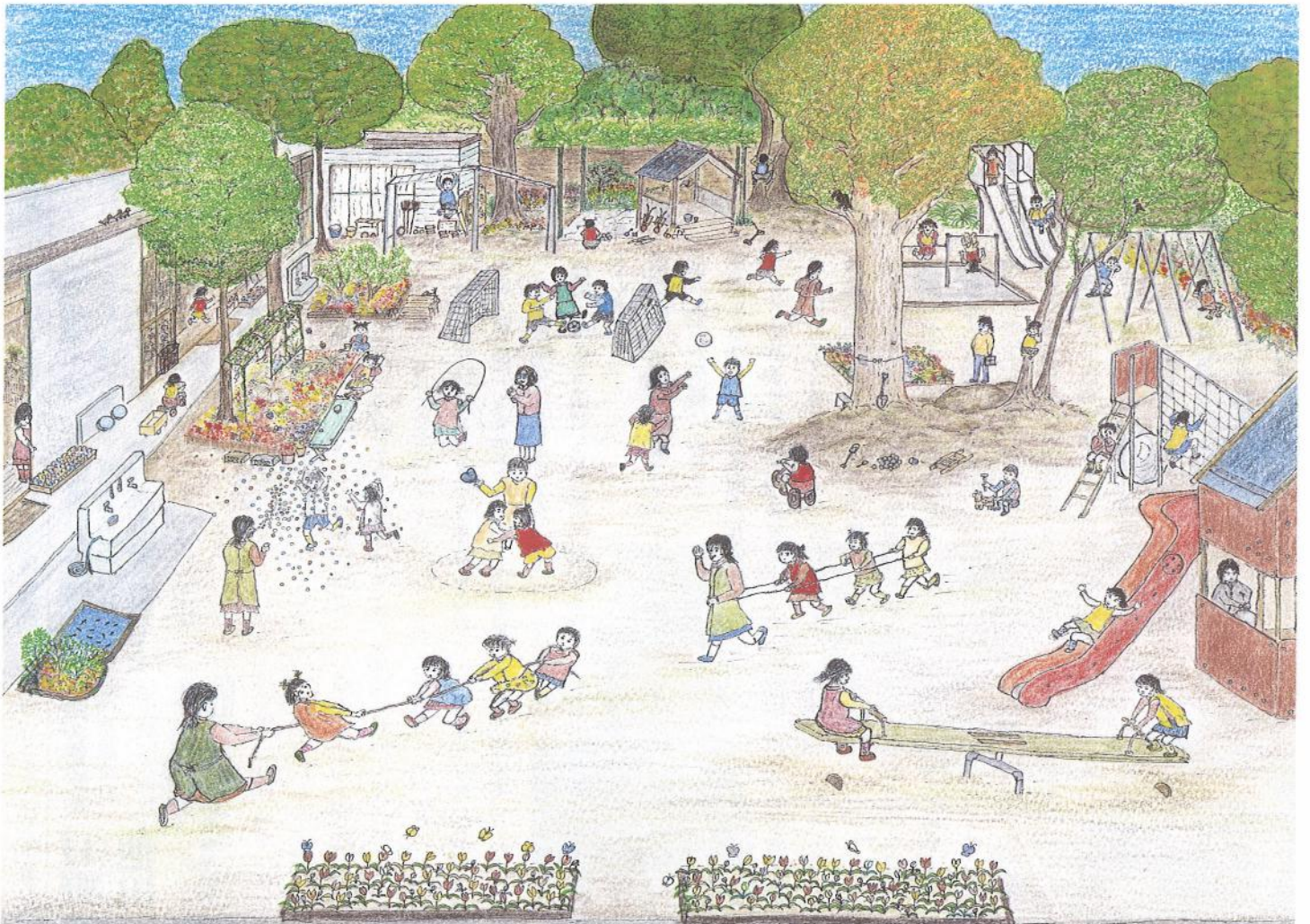
FÛ

EN

# 楓園

## CONTENTS

- |   |                   |
|---|-------------------|
| 1 — 特集 理事長対談「いのちあるものへのまなざし」<br>— 日野原重明先生と語る — | 7 — 中高部 NEWS      |
| 5 — かえて幼稚園 NEWS                               | 9 — 大学 NEWS       |
| 6 — 東洋英和幼稚園 NEWS・小学部 NEWS                     | 10 — 学院 NEWS      |
|   | 11 — 英和の植物通信・お知らせ |



■東洋英和幼稚園の庭で遊ぶ子ども達  
ある年の年長児、教職員全員が庭で過ごしている風景です。  
園児のお父さまが春・夏・秋・冬…一年の様子を一枚の絵の  
中に描いてくださいました。

## いのちあるものへのまなざし

— 日野原重明先生と語る —

聖路加国際病院理事長・同名誉院長 **日野原 重明**  
 東洋英和女学院理事長 **池田 守男**

司会／本学国際社会学部教授 黒石 徹



日野原 重明

## PROFILE

1911年山口県生まれ。京都帝大医学部卒業。2005年文化勲章を受章。予防医学、ターミナルケア（終末期医療）の普及、「生活習慣病」を名づけるなど、医学・看護教育などの分野で常に時代の先駆けとなる。さらには絵本の翻訳、「いのちの授業」などの子どもへの講演も展開。ご家族が東洋英和をご卒業・在学されている。

いのちという見えないものを子ども達に  
 教えていく。与えられた自分のいのちの時間を  
 いかに生かしていくか、子ども達に考えてほしい。

信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。

その中で最も大きいなるものは、愛である。 コリントの信徒への手紙一 一三章一三節

九五歳を超えてなお講演や執筆に  
 そまれている日野原重明聖路加国際  
 病院理事長・同名誉院長と本学院の池  
 田守男理事長とが、このほど教育を中  
 心テーマに対談しました。一時間を越

える対談では、今日の社会と平和、教  
 育制度、いじめ問題など話題は多岐に  
 わたりました。お年を感じさせずに力  
 強くお話しになる日野原先生のお姿に、  
 深い知性に裏打ちされたキリスト者と  
 しての強い使命感と信念のメッセージ  
 を受け取った感がありました。

### シユバイツァーが 密林で出会ったいのち

— 本日はお忙しいところありがとうございます。

**日野原** 昨夜遅く台湾から帰ってきたところ。週末またオーストラリアに行き「新老人の会」で話をします。戦争を知っている七五歳以上の老人が、自分の戦争体験やさまざまなメッセージ

を子どもに伝えようという趣旨でこの  
 会を六年前につくったたら、オーストラ  
 リアまで広がってしまったのです。

**池田** とても素晴らしい試みをなさっ  
 ていますね。

**日野原** 核兵器のバランスが崩れ、今  
 日の平和が危機にあります。真の平和  
 を求めるなら国民と他国が互いに他の  
 生き方を尊重することが必要です。そ  
 れはいのちを尊重するということでも  
 あります。シユバイツァー博士は、三  
 〇歳を過ぎてから医学を勉強してアフ  
 リカ・ガボン国（現）のランバレネで  
 病める人々の治療にあたった「密林の  
 聖者」ですが、「生命への畏敬」を強く  
 感じていました。人間は生きたいと本  
 当に望んでいる、欲のある動物ですが、  
 ジャングルの川を渡った時にカヌーを  
 持ち上げるワニでさえ生きたいと願っ  
 ているのであり、そういういのちに囲  
 まれながら人間は生きています。いのち  
 の威厳さに打たれたことを何度も書い

ています。わたしの医学者としての目  
 標の人物です。

**池田** 私もシユバイツァーの本を読ん  
 で人生観が変わりました。それが牧師  
 になろうと思った潜在的出発点かもし  
 れません。

### いのちという時間を生かす

**池田** 現在いじめなどが問題化してい  
 ますが、これもいのちの大切さがなが  
 がしろにされているからでしょう。私  
 は政府の教育再生会議の一員としてい  
 のちを育む「心の大切さ」を訴えてい  
 こうと思っています。

**日野原** 日本中の学校で十歳の学童達  
 によくいのちの話をしています。聴診  
 器を四〇人のクラスに二〇本渡して互  
 いに心臓の鼓動を聴かせて、心臓は確  
 かにいのちを動かしているポンプの役  
 割をしているけれども、心臓はものだ  
 からいのちじゃないんだよ。いのちつ  
 ているのは大切だから見えないんだよ。



自分のいのちも、さらには他者のいのちも  
共に尊重していく感性を育てることが、  
現代の教育の重要な使命です。

池田 守男

PROFILE

1936年香川県生まれ。61年東京神学大学神学部を卒業。資生堂入社。副社長を経て、社長、会長を歴任、現相談役。日本経団連評議員会副議長・少子化対策委員長など公職多数。2005年東洋英和女学院理事長就任、国際基督教大学理事などを務めている。現在教育再生会議の座長代理。2006年「新渡戸・南原賞」受賞。

自分が持っている自分で使える時間、その自由な時間がいのちなんだよ、と伝えていきます。子ども達にいのちの大切さを説いたら、後で手紙がきました。「寿命という空間に私達の瞬間、瞬間の時間をうめていくのですね」という文がありました。素晴らしい感性であり哲学です。十歳の子どもは素晴らしい可能性を持っています。だから「十歳のきみへ——九十五歳のわたしから」という本を書いたのです。サン・テグジュペリの「星の王子さま」では、話に出てくるキツネが言うように「本当に大切なものは目に見えないだよ」と作者は説いています。見えない大切なものを一人ひとりの子どもが持っているのです。十歳の子どもは世の中を十分理解しています。その可能性を評価する大人のしくみが間違っているのです。

**池田** 子ども達がいのちの大切さを実感できるような教育が必要でしょうね。子どもは時間を自分のために使うということを理解したら、更にまわりの両親・友人・社会に対しても時間を使うということを教えるのが教育の使命なのでしょうね。

溢れるものの中の想像力

——いまの世の中にはものが溢れ、いのちを含めて何かを大切にするという精神が薄れていませんか？

**日野原** ものがない日米戦争中は、角

砂糖一つでも大喜びでした。聖書にあるように貧しい者こそ幸福である、というのは本当です。貧しいとお互いに分け合う気持ちが生まれる。豊かすぎると幸福の水準が高くなり、幸福が遠のいて「欲望」となってしまう。

**池田** 飽食の中では感謝の念が薄れていきます。もっと感謝の気持ちが必要ではないでしょうか。

——すでにものが溢れている現代で、どうすればよいのでしょうか？

**日野原** 想像力が必要でしょう。

**池田** そうですね。もし向う三軒両隣で飢えている人がいれば助けようという気持ちが出るでしょうが、アフリカのような遠い所のことでは飢えを理解できない。まだ見ぬ国の人々の傷みも分かち合うような生き方を教えるのが、教育の役割ではないでしょうか。

"give & give"の奉仕

**日野原** 国会で代議士を前に「これからの日本をどうするか？」と質問されたとき、例えとして医師育成の問題点を指摘したことがあります。米国では大学でリベラル・アーツ（一般教養）



を学んでから更に四年間医師の勉強を始めるのです。日本では偏差値が高かったり、親に押し付けられて高卒後に医学部に入るので。適性もなく、使命感もない医者では困るのです。医者というのはmission(使命)とかcalling(召命)に基づかないといけないのです。**池田** 確かに仕事に対する使命感は必要ですね。だから大学では学生が自分の知力、人間力を社会に生かそうという目的意識を持って自分で勉強するという姿勢が大切でしょうね。単位を取ればいいのか、形式主義はいけませんね。



—使命感、目的意識を持たせるにはどうすればよいのでしょうか？

**日野原** 日本でも若者は一、二年外国の難民キャンプで働いたり、井戸を掘ったり、農業を手伝うといった経験をすることが必要ではないでしょうか。

**池田** 私自身企業人として企業サイドで、若者が社会との接点を持てるような態勢を作る必要性を常々感じています。自分や企業が存在するのは社会全体から「生かされている」、社会全体の支援があるからだという意識を持つべきでしょう。それには会社でも教育の現場でも真の意味の奉仕活動の経験が必要です。

**日野原** 夏休みに聖路加病院に来る若いボランティアが、奉仕活動が点数になると言っていたのはショックでした。ハーバード大学で三五歳に総長になって四〇年間その職にあったW・エリオットという人は、最後の卒業式で「他人に配慮することが習慣づけられた人間になりたまえ」と言いました。それは本当の意味で奉仕すること、徹底して奉仕することにつながります。

**池田** 私も社会に出てから、人に対して社会に対して何かサービス出来ないか、いつも考えてきました。「サービス・アンド・サクリファイス（奉仕と献身）」が人生の目的と思っています。

**日野原** 奉仕の場合、「give & give」（与えて与える）が大切です。日本人は、「take & give」（儲かったから、出す）

という観念が強すぎます。自分が受けた恩義は返そうとしますが、それだけではなくて、関係のないところに「与える」という精神が生まれれば世の中が良くなるでしょう。「pay back」でなく「pay it forward」しないと社会は良くなりません。

**赦す心子を育てる**

—子どもの教育について今一度おたずねいたします。

**日野原** いじめられたら、殴り返すな、仕返しするな、ただ「今度からやるなよ」と言い返しなさいと言っています。辛抱することも大事と忠告します。国と国の間でもやられたらやり返すという仕返しをすれば戦争になります。9・11ニューヨークテロ以降の世界がそれです。個人同士であれ、国同士であれ、赦すことをしなければなりません。赦すということとはつらいことですが…

**池田** ガンジーの無抵抗運動のように東洋人固有の心、東洋人固有の赦しの心を二一世紀はアジアから発信しなければならぬですね。先ほどのお話でハーバード大学の学長エリオットが言った「他者を配慮する」という精神ですね。日本人には先天的にその精神があるはずですが、それを育てていくような教育環境を整えなければならぬですね。

—具体的にはどのようなことが必要でしょうか？

**日野原** どんなに科学が進んでも人間は花や動物をつくれません。つくられた自然を尊ぶのです。ニュートンもアインシュタインも自然を尊敬しています。草木や花を大切にすることを教えるのです。それにペットを大切にさせるのです。

**池田** 生きとし生けるものが地球上で一緒に暮らしているという感性が必要です。私は、食事の際の「いただきます」という言葉は、動植物のいのちを「いただきます」という感謝の気持ちを表したもので、と言われました。自然から生かされているから感謝しなければならぬ、ということを教わりました。

**日野原** 草木やペットといういのちを大切にすることから、いのちを奪う戦争の愚かしさを学ぶのです。そこには宗教教育が必要です。公立校では宗教は教えてはダメ

と言いますが、

それならば「宗教学」を学ばせればよいのです。

それぞれの宗教はどういった歴史と教えを説いているかを学ばせるのです。人の最後を看取る医者も宗教への理解がないと務まりません。



他人に配慮することは奉仕するところに通じます。そして"give & give"の精神で徹底的に奉仕することが必要です。

日野原 重明





人とのつながりを学んでいく場

—東洋英和の教育についてお聞かせください。

**日野原** 東洋英和は一貫教育校です。ロバート・フルガムという牧師が書いていますが、幼稚園児には砂場遊びが大事です。人の邪魔をしないで一緒に遊ぶ、砂遊びの後は手を洗う、といった砂場の倫理は大人になってもいい影響を与えるでしょう。他人のいのちを尊重する原点です。

**池田** 東洋英和の幼稚園でも砂場があり、それは重要な位置を占めています。

**日野原** 小学校では上級生が下級生に教えたり、一緒になって共同作業をすることで下級生を引っ張り上げることが大事です。子どもは大人である先生よりすぐ身近の上級生からより多くを学ぶからです。一人つ子が多くなっていますが、お兄さん、お姉さんに来るだけ接触させるべきです。米国では学習計画を立てるのは学生本人で、先生が教えるよりグループに自由な時間を割かせていますね。先輩と後輩が学び合うのです。

社会や大きないのちの営みによって人間は生かされています。他者に奉仕する活動の経験がそのことを気づかせてくれます。

池田 守男

**池田** 頭でなく体で覚えること、野外学習などで同年齢だけでなく縦のつながりを考えて共同生活をさせる、ということも東洋英和でも行っております。そういうところで得た知恵というのは大事なものです。日野原先生がおっしゃった動物や植物を大事にすること、更には自然の中で学ぶことは子ども達にいのちの尊さ、自然への畏敬を教える本当に有力な方法だと思います。

勇気が生む出会いの素晴らしさ

**池田** 先生が訳された本に「勇気」という絵本がございますね。

**日野原** プラトンは、「叡智、正義、自制、勇気」という四つの徳をあげていますが、子ども達にこのうちの「勇気」を教えたいのです。「武士道」も勇気を高く評価していますね。なにも攻め込まなくても、じつと耐えることが勇気のことでもあります。だから私は「勇気」という本から子ども達にそれを教えたかったのです。プールで高いところからダイビングするには勇気が必要で。私は七〇歳のとき、孫とジェット・コースターに乗りました。六〇歳

以上はダメと言われましたが、若く見えたのでしよう、ジェットコースターに乗れました。動き出したら怖くて心臓麻痺になるかと思つて「神様、神様」とずっと念じておりました。ところが終わってみると何か達成感があるのですね。(笑) 達成感はその人にエネルギーを与えます。だから「かわいい子には旅をさせよ」というのです。子ども達には勇気を教えると同時に、何かを試みることを奨励すべきでしょうね。思いがけない「出会い」とか「邂逅」というのが僕はとっても好き。シユバイツァーに出会つて人生が変わつたようにね。常にそこから生まれる思いがけない逆転の発想から僕は医学でも何でも捉えてきたから。

いのちは終わることない可能性に満ちている

**池田** 人の生きていく姿に触れることや本に出会うことが人生を豊かにしていきますよ。

—お年を召された方への忠告はありますか？

**日野原** 私の患者の方で現在九一歳になるおばあさんがいます。彼女は半身不随でしたが、本人は寝ていたくない。そこで、絵を描くことを奨めました。化粧品を販売していたので色に興味があるのではないかと思つたのです。すると一年後に美術雑誌に彼女の絵が掲載されるようになったのです。私

も絵が好きですが、彼女のような素晴らしい線は描けません。彼女のDNAの中にあつた能力が新しいことに挑戦することで引き出されたのです。ドイツの哲学者のマルティン・ブーバーが言っているのですが、人は創めることさえ忘れなければいつまでも若くいられると。老人にとつても新しいことはいくらでもあるのです。

**池田** それはいいお話ですね。挑戦ですか。なんだか力が湧いてきました。(笑)

—最後に先生のお好きな聖句をうかがいます。

**日野原** 私が好きなのはコリントの信徒への手紙一 一三章一三節、「信仰と希望と愛」のところ。この聖句は私が小学校一年生の時のクリスマスに朗読したので覚えたのです。子どもの時に植えつけられたものは、その人しつかり根をはつて年を経るごとに大きくなります。だから子どもの教育は大切なのです。

**池田** 私自身もずいぶん啓発されるようなお話をたくさんうかがいました。本日は本当にありがとうございました。

日野原先生の著作・翻訳本

「十歳のきみへ—九十五歳のわたしから」  
日野原重明著 (富士房インターナショナル)

【いのちの授業】  
日野原重明著 (ユリーグ)

「勇気 COURAGE」  
バーナード・ウェーバー作  
日野原重明訳 (ユリーグ)

飯田先生と木工

かえで幼稚園園長 森高 ホサナ

飯田先生のこと

かえで幼稚園の創設とそれからの十年、かえで幼稚園の土台を築いて下さったのが飯田泰造先生です。

今から三三年前、一九七三年四月にかえで幼稚園は短期大学の付属園として横浜市青葉区に開園されました。飯田先生は園舎

についても、保育においても大きな示唆を与え続けて下さいました。飯田先生は当時、短期大学保育科の絵画製作を担当する教授

でいらつしやいましたが、新設されたかえで幼稚園をこよなく愛し、子どもの生活の中に木工活動を導入され、毎週幼稚園に来る日は木工室に入り、子どもたちと、私たち教職員に、手をとって木工の楽しさを教えて下さいました。お父さんたちが幼稚園の遊具を創ったり修理をする「ワークの日」を始めて下さったのも飯田先生です。創設当初飯田先生は学生たちとかえで幼稚園に



若かりしころの飯田先生

やつてきて遊具を作つて下さいました。やがて、お父さんたちの手で生まれた、ぬくもりの残る遊具で子どもたちを遊ばせたいとの思いが、お父さんたちとの「ワークの日」が生まれるきっかけになったのです。

二台目の車づくり

今年度私たちは、「ワークの日」にお父さま方に、子どもが乗れる車を作つていただきました。実は、三〇年前に飯田先生と学生が作った車が、一台目の車でした。三〇年の間、この車の上で、子どもたちは笑つたり、泣いたり、友だちになつたり、ハンドルをとりあつてケンカをしたりしてきました。毎年たくさんのお話がこの車の上で生まれました。一八〇〇人も子どもがこの車に乗って遊んだ、大活躍の車でした。この三〇年の間、この車は、何度も壊れました。パンパー部分がはずれては、とめ直し、ペンを十回以上塗り直してきました。子どもが好きなハンドルの部分は、毎年壊れました。その度に知恵を出しあつて直し続けてきました。しかし、ハンドルを支えている芯棒が、とうとう擦り切れ、壊れてしまいました。それでもこの車を何とか直したいと思つていました。

二〇〇五年の六月のことです。久しぶりにかえで幼稚園に飯田先生をお迎えした折

には、懐かしそうに車を見て「この車をまだ使っているんだね。車が壊れてしまう前に、もう一台作つておくといいね。」と話されました。飯田先生のことばを心にとめて、昨年は二台目を作ろうと思ひ、春から車の材料の準備を始めていました。そして、新しく作る時、「もしも新しい車の作り方がわからなくなつたら、飯田先生に聞きに行こう」と誰もが思つていたので。今までも、庭にあるかえでタワーを作り直す時も、庭のままごと小屋を作り直すときも、わからなくなると「先生助けてください」と飯田先生に電話をしたり、お家を訪ねて、教えていただくことがたびたびありました。「飯田先生に聞けば大丈夫」と思つていました。

二〇〇六年八月、私たちは、かえで幼稚園の木工活動のルーツを知りたいとスウェーデンに出かけました。ところが、飯田先生が三六年前に留学していらしたヨンシツピングの町に、私たちが滞在していた八月五日、飯田先生の訃報を耳にしたのです。

九月を迎え、私たちは、お父さま方の力を借りて、「ワークの日」に二台目の車を作ることになりました。「ここをどうするのか」と飯田先生に聞けないまま、二台目の車の製作は始まりました。わからないところがあると、一台目の車を見ながら、お

父さま方は、知恵を出しあつて進めていきます。その様子を子どもたちが見ています。飯田先生はよ

く、「出来上がった作品よりもその過程を大切にすること」とおっしゃっていました。それは主に子どもたちの絵画製作についてのことだと思つていましたが、この二台目の車づくりにおいても言えることでした。

二回のワークでハンドルがとりつけられて車は無事に仕上がりに、今、子どもたちが乗つて遊んでいます。

かえで幼稚園の子どもたちは、飯田先生を通して伝えられた木工活動において、のこぎりやかなづちを手の延長として使いこなしています。そして毎日、木工室に、「今日は〇〇を作ろう」とやってきました。木を切り終えた満足感と、自分で創り出す楽しさを子どもたちは日々味わっています。

これからも、かえで幼稚園では木工活動と「ワークの日」を大切にしていきたいと考えています。



作製中の二台目の車

”おかえりなさい“

小学校がお休みになると、「幼稚園へ遊びに行ってもいいですか」と自分で電話をかけてくる卒業生のK君。先生たちと相談をし、行事と重ならない限り卒業生を迎えることにしています。すでに小学校の高学年になったK君は毎年続けて来ています。朝やって来ると自然に園児たちと遊び始め、寒い日、暑い日関係なく、必ず砂場で遊ぶ姿が見られます。幼稚園の頃から砂場が好きで、「工事の人になる」とせつせと穴を掘り、どンドン掘っていくうちに、「地下鉄にぶつかっちゃうね」と話していた姿が思い出されます。

水を汲んでは流し、トンネルも作っていました。シャベルの使い方もとても上手で、誰から教わるでもなく、繰り返し体の験から学んだことなのです。大きいお兄さんが送ることへ憧れの眼差しを送る園児たち。一緒になって砂場遊びがダイナミックに展開されていきます。トイやホースを使い、水が高い方から低い方へと流れ



ていく仕組みを実体験で見せてくれます。夢中になっている子どもたちは、協力して重たい水もせつせと運び、汚れることも気にせず、時間がたつのも忘れてしまいます。K君は、その後のおやつやお弁当も園児たちに交ざり、帰りのお祈りまで一緒に過ごしていきます。

K君に聞いてみると、砂場に行く幼稚園で遊んだ時のことを思い出すと、居心地の良い場所のようです。子どもたちの大好きな『さようなら』（こどもさんびか・2）の歌詞が浮かんできました。もつとあそんでいきたいのにかえるじかんにまりました

すなばもつみきもまつてね  
あしたもはやくくるからね

幼稚園の頃の話をするのが好きで、小さな子どもが大好き。そんな優しい、素直な気持ちはいつまでも続くことでしょう。「またくるからね」と言っていた言葉を信じ、いつでも「おかえりなさい」と温かく迎えてあげたいと思います。今では将来の夢はパイロットになること。十年後どんな大人になっているか楽しみです。

## 学芸会

五年前から、美術展との隔年実施での二日間を改め、合唱の学年など内容を工夫して一日とし、毎年の行事となりました。今年度は十二月一日（金）に行いました。

一年生は、大きな声で歌をうたうことができました。二年生は担任創作の劇発



2年生「いずみとあふるる」

表。緊張していたようですが、陽気な歌に合わせて精一杯演技することができていました。三年生は一年生とはまた違った歌唱力で素晴らしい歌の発表でした。四年生の劇は、難しい題材に取り組み舞台の上で魅せる、ということを主張した作品でした。五年生は英語の歌に挑戦しました。一年生から勉強してきた英語力が存分に発揮できていたと思います。六年生は各組ごとに劇を発表。今までは担任の先生に頼って演技していたのが、自分達で監督・脚本・照明と裏方の仕事をし、クラス全員が協力して、これまでの学習の集大成としての素晴らしい発表でした。この学芸会での経験が、これからの成長につながっていくことを願っています。



4年生「不思議の国のアリスたち」



6年2組「Eメールと探偵たち」



6年1組「サウンド・オブ・ミュージック」

## 東洋英和幼稚園

## 小学部

## オープンスクール ～中高部の入試広報活動～

二〇〇七年度中学部入学試験の応募数が締め切られました。一月二十五日現在A日程では昨年を上回る応募者数となり、改めて東洋英和女学院の教育への期待の大きさに身が引き締まる思いです。

中高部の入試広報部門の大きな目的は「より正しく学校を知ってもらう」事です。入学前に東洋英和が目指す教育を理解してもらいたい、東洋英和を好きになって入学して欲しいと考えています。中高部では四月から翌年二月入試までの間に、広報活動を継続して行ってきました。特に受験生が英和に訪問できる機会は大切にしています。その数は限りがありますが、その際には中高部の様々な面をご覧いた

だき理解を深めてもらいたいと考えています。その中で、今年度初めて行った試みとして「オープンスクール」があります。ここではオープンスクールについてご報告いたします。

二〇〇六年七月一日(土)、来校者総数一、七七〇名。中高部としては、楓祭につぐ大規模の来校者数となりました。およそ一年間かけて計画し、この日の実施に向けて準備を重ねてきました。中学受験熱の高まりと同時に、各校が様々な工夫をして自校の学校情報を提供する動きが世間の必然となっている。中高部でもこれまで学校説明会や楓祭など受験希望者が来校できる機会を作ってきましたが、受験希望者本人がじっくりと学校の様子を見られる機会を作ろうというねらいでこのオープンスクールを企画しました。しかも時期は夏休み前。これは志望校選びの早期化また受験生本人の夏休み前のモチベーション作りにも連動させるためです。

メインの企画は体験学習です。これは受験希望者が中高部教員の授業を実体験できるというもので、「一日英和生」気分が味わえます。講座は十三種類。総定員七四〇名。今回は予め希望講座を電話予約してもらったことになりました。ところが、

予約初日から、受付電話は鳴りつ放しの状態となり、朝から電話している方で、繋がったのはお昼過ぎということもありました。多くの方にご迷惑をおかけしました。用意したすべての講座は予約開始三日目午前ですべて満席となりました。より多くの方に体験してもらいスムーズな予約を行えるように次回はこの予約方式の検討が必要かと思われま

当日は快晴のもと、朝から大勢の方々に来校いただきました。大講堂で礼拝も体験してもらいました。礼拝は予想以上の入場者数となり、大講堂に入りきれずに

中学部教員

石澤友康

教室で中継を見てもらう措置もとりました。礼拝は讃美歌を歌い、佐藤順子中学部長のお話を聞き、祈りをささげました。礼拝は東洋英和が創立以来最も大切にしているものです。この礼拝に大勢の方が参加し体験していただけたのは、私達にとつて本当に嬉しいことでした。英和の教育の芯の部分を感じ取っていただけたものと思います。

その後、体験学習・ミニ説明会・ミニコンサート・個別相談会・DVD上映・クラブ見学など受験希望者は自分の希望に合うプログラムを選べます。体験学習では、緊張した面持ちでした

### 2007年度入試募集状況

(2007年1月25日現在)

	募集人数	応募者数	応募倍率
A日程(2/1木)	80	296 (279)	3.7 ( 3.5)
B日程(2/3土)	30	457 (458)	15.2 (15.3)

( ) 昨年度

### 受験生が参加できる学内行事 (2006年度)

7月 1日(土)	オープンスクール	
9月 9日(土)	第1回 学校説明会	午前：6年生対象 午後：5年生以下対象
10月20日(金) 21日(土)	楓祭	
11月18日(土)	第2回 学校説明会	午前：5年生以下対象 午後：6年生対象
12月 9日(土)	クリスマス音楽会	



「礼拝」大講堂で大勢の方々と礼拝を守りました。全員で讃美歌312番を歌いました。



「国語の体験学習」漢字の成り立ちを学習しました。一日英和生気分を味わいました。

■体験学習一覧

聖書	イースターエッグを作ろう!
国語	漢字のルーツを探る
社会	のぞいてみよう! 世界の不思議
算数	変身する立方体
理科 A	オリジナル万華鏡作り
理科 B	DNAストラップ
理科 C	魔法の手紙
情報	コンピュータであそぼう
美術	ステンシルでオリジナルコースター作り
英語	Let's enjoy English!
天文部	手作りのプラネタリウム
ハンドベル部	やってみようハンドベル
YWCA	体験! YWCA活動

■オープンスクールタイムテーブル

	大講堂 2F	各教室	集会室 1F	社会科教室 3F	メディア教室 5F	各場所
9:00			受付	開始		
9:30	礼拝					
10:00	ミニ説明会 1回目	体験学習 1回目(予約制)	英和生と話そう 1回目			クラブ見学
10:30						
11:00	ミニ説明会 2回目	体験学習 2回目(予約制)	英和生と話そう 2回目	個別相談	学校案内 DVD上映	
11:30						
12:00	ミニコンサート					
12:30						



「ミニコンサート」ハンドベル部によるテンポのよい演奏にお客さまも聞き入りました。



「英和生と話そう」受験希望者と保護者が英和生と直接話ができる企画です。生の声が聞けると好評でした。

が、受験希望者は一生懸命授業を受けていました。中には授業で作った作品(理科のDNAストラップや情報科のオリジナルうちわ等)を誇らしげに持って歩いている姿が見られました。

ミニコンサートでは、パイプオルガン演奏・フルートアンサンブル・クワイア合唱・ピアノ演奏・ハンドベル演奏が行われました。数多い英和の音楽活動が凝縮されているコンサートとなり、やはり満席となった会場から大きな喝采を浴びました。

保護者に大好評だったのが、「英和生と

話そう」という企画でした。これは生徒会中央委員会の生徒達が、自分達の手による学校紹介を行い、その後個別質問に答えるというものです。実際に通っている生徒から生の声が聞けるということで、受験希望者や保護者に喜ばれました。

中央委員の生徒も、お手伝いをしてくれた高一・中三生徒も、来校者に対しての礼儀や対応では、「マナーが良く、説明を求めても快く応じてくれてとても気持ちよかったです。」と多くのお褒めの言葉をいただきました。何ととっても学院の校風と伝統を築いている在校生を認めてもら

- 来校者アンケートの感想より  
一学期のうちにオープンスクールやミニ説明会にうかがえることができるのは、志望校を考える上で大変ありがたいものでした。
- 礼拝・体験学習・クラブ見学まで体験でき、一日東洋英和生気分が味わえて良かったと思います。なにも在校生のお嬢様方が笑顔で五、六年生のお世話をする姿にすばらしいなと思いました。
- 「英和生と話そう」という企画が特にすばらしかったと思います。貴校の教育方針を感じる事ができました。やはり校風は生徒にしみわたりました。よき人間形成につながるのでしょう。
- 礼拝が非常によかったです。進学実績や最新施設を強調される中学が多い中、礼拝にしても体験学習にしても子ども達の心の教育に常に主眼をおかれている様子がよくわかり感謝を受けました。

えるのは何より嬉しいことです。

教職員総出。多数の生徒の手伝い。全校総力をあげてのオープンスクールでしたが、東洋英和中部の教育内容を大勢の方にご理解いただけたものと感じています。

## 「資質の高い教員養成プログラム(GP)」

— 経験・省察・連携による教員養成 —

二〇〇七年度大学改革・人間科学科「保育子ども専攻」発足に際し、東洋英和の保育の伝統を二一世紀に生かすため「経験・省察・連携による教員養成」をプロジェクトとして企画しました。それが文部科学省平成一八年度「資質の高い教員養成プログラム(GP)」として選定され、活動を開始することになりました。

本プロジェクトは二〇〇年のキリスト教学校の伝統とリベラル・アーツを特色とした人間科学科での過去九年の幼稚園教員養成の実践の工夫を踏まえ、次の三つのプロジェクトによる多様な経験・省察を通して、他者理解や奉仕について学び、総合的な人間力を具えた専門家として、倫理的に資質の高い教員を養成することを目的としています。

① サービス・ラーニング  
— 奉仕を通して学ぶ —  
上田保母伝習所時代からの実習重視の学風を受け継ぎ、二〇〇二年度から開始された保育ボランティア(四年次の一年間のボランティア活動)が高い評価を得ていることを受けて、「無償の奉仕を通して自己の活動を振り返る省察による学習形態」と位置づけてカリキュラム化しました。従来の保育施設はもとより、認定こども園や学童

保育施設や小児病棟での活動が期待されています。

② 子どもセンター(保育子ども研究所)  
— 他者・社会との連携を学ぶ —  
運営は「保育子ども専攻」所属の全教員が中心となり、キャンパスの中で学生と子どもと保護者と卒業生の保育者が共に集い、そこで保育の課題を共同に研究することを目的にしています。東洋英和には二つの幼稚園がありますが、いずれも学外にあるため、日常的に子どもたちの生活に触れる機会がありません。それを補う意味でも「子どもセンター」を設置し、地域と連携する拠点としたいと考えています。

③ 保育子どもフィールドワーク  
— 子どもへの視野を拓く —  
これまでの三年次の「総合演習」の授業での学生による自主活動のプロジェクトを発展させて「保育子どもフィールドワーク」としてカリキュラム化します。夏季冬季の国内フィールドワークと国外フィールドワークを

人間科学部教授 吉岡 良昌

新設し、約二週間の体験をし、レポートすることによって単位を取得する制度です。夏季には英和の保育の源である信州・北陸を訪ね、幼児教育草創の歴史を学び、冬季には、大自然の中で遊びや運動を体験し、幼児教育に役立てます。国外では、ケニアの幼稚園実習をしたり、フィリピンやカナダでの子ども支援活動に参加し、このような体験を通して、発見力と問題解決能力や異文化受容能力を育成することをめざしています。この三つのプロジェクトの実施により反省的实践家としての保育専門家の養成を期待しています。

本学でのこれまでの教員養成



本申請における3つのプロジェクトの総合形態



## 追悼 楠精一郎教授

国際社会学部部長 池田 明史

大学国際社会学部所属の楠精一郎教授は、去る十月二五日、膵臓癌のため逝去された。享年五四歳であった。

楠教授は東京のご出身で、慶応大学法学部及び同大学院法学研究科に学ばれ、高崎経済大学等での教職を経て一九九五年に本学社会科学部教授に就任された。爾来、学部主任をはじめ高大連携・入学前教育委員長、自己点検・評価委員長等の要職を歴任され、とりわけ第二世代塚本学長の下では大学運営委員として常に中枢にあり、大学の重要課題の処理に当たって認められたのは、楠教授の功績に帰すべき部分が大きい。

研究者としての足跡にも特筆すべきものがある。専攻分野の近代日本政治史では、日露戦争直前に生じた大津事件で名を知られる司法官についての著書『見島惟謙』(中公新書)で評価を確立されたが、その後も続々と研究成果を公刊され、最晩年に著された『大政翼賛会に抗した四〇人』(朝日新聞社)や『昭和の代議士』(文春新書)は、各紙の書評欄で採り上げられ、高い評価を得ている。最後に、一年次や二年次のゼミでその人柄に接した学生の多くが、そのまま卒業まで楠ゼミにとどまり続けた事実は楠教授の卓越した教育者としての力量を物語っている。

## 遺贈による寄付制度導入のお知らせ

今般、本学院は中央三井信託銀行と「遺贈による寄付制度」に係わる覚書を取り交わしましたので、概要をご説明いたします。

本制度は、昨今の高齢化社会における遺言信託が普及する流れの中で、信託銀行と提携することにより、遺言によって財産の一部を本学院へご寄付くださる篤志をお持ちの方々の便宜を図ることを目的に発足することになりました。卒業生、保護者、教職員等関係者はもとより、本学院への遺贈による寄付を通じて、本学院の教育・研究活動の一層の充実発展を支えていきたいというご意向をお持ちの方々がいらっしゃれば、ご紹介いただきたく、お願いいたします。

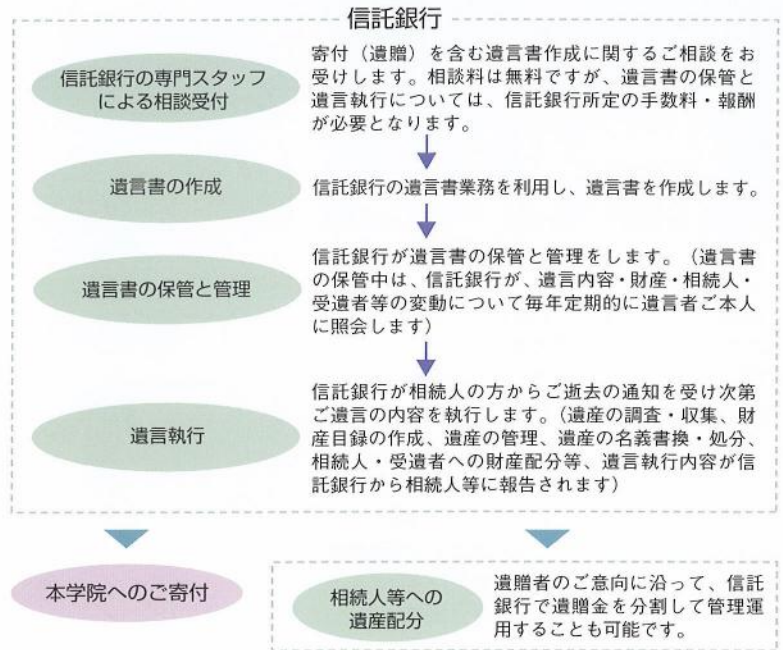
お問い合わせは  
法人事務局経理部経理課へ

電話 03-3583-3853

### 相談受付から遺贈の実現までの流れ

本学院への遺贈によるご寄付をお考えの方

法人事務局経理部…… 信託銀行をご紹介します



本学院へのご寄付

相続人等への遺産配分

### 第二回カナダ宣教師墓前礼拝

昨年度に引き続き今年度もカナダ宣教師墓前礼拝が十一月四日、青山霊園のカナダ合同教会墓地で執り行われました。大学の宗教主任の陶山義雄先生の奨励を伺い礼拝を守りました。学院の創立の精神に立ち返る良い機会となりました。

### 永年勤続者表彰

創立記念日の十一月六日、二五年にわたってお勤めいただいた二名の方を学院より表彰いたしました。

大学 油井 厚子  
中高部 野沢 千秋

### 全学院教職員対象の研修会

全学院教職員対象の研修会が十一月八日、大学で行われました。今年度は「セクシユアル・ハラスメントの現状と対策―激増するセクシユアル・ハラスメント紛争とリスクマネジメントの必要性」と題して弁護士山の山田秀雄氏に講演していただきました。多くの実例をもとに、個人として、また組織として気を付けなければならない点や対応についてわかりやすくお話くださいました。講演後の懇談会では二〇〇七年度の大学改革について鮑戸学長より説明がありました。

### ピアノ科二〇周年記念音楽会

十一月十一日、新マーガレット・クレイグ記念講堂にてピアノ科二〇周年記念音楽会が開かれました。第一部はピアノの独奏と連弾、第二部はサンサーンスの「動物の謝肉祭」を演奏しました。閉会にあたって、長年ピアノ科にご勤務いただいた加藤信子、北爪玲子、大宮暁美、藤岡悠紀、塩見滋子、亀島久子、森久保夏実、以上七名の先生方が池田理事長より表彰されました。音楽の恵みに講堂中が満たされた素晴らしい音楽会でした。



### 第十一回ハンドベルフェスティバル

十一月二五日、新マーガレット・クレイグ記念講堂にてハンドベルフェスティバルが開催されました。「小学部エンジェル・リンガーズ」「中高部ハンドベル部」「中高部母の会カーネット・リンガーズ」「中高部母の会OG楓リンガーズ」「中高部OGエーデル・リンガーズ」「中高部OGメイプル・リンガーズ」「大学エヴァーグリーン・リンガーズ」が勢ぞろい。ベルの美しい調べが響きわたりました。

# 英和の植物通信

～目を近づければ楽しさ無限～ No.07

絵・文・写真：中池 敏之

(大学非常勤講師：博物館概論等担当)  
(生涯学習センター講師)

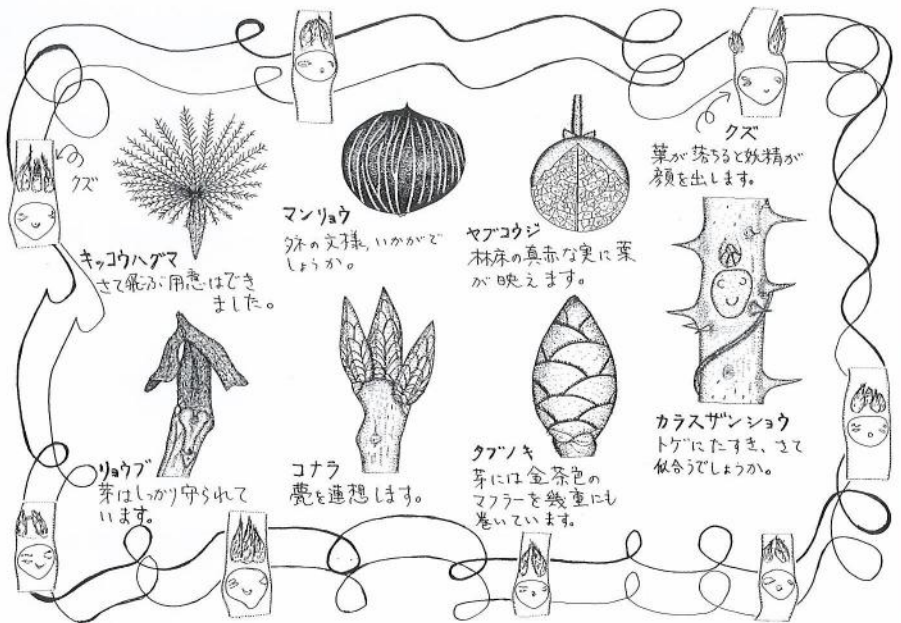


クズ 横浜キャンパスにて

## クズ(葛)

冬枯れのこの時期にこそ楽しめる植物の観察がある。実、芽、葉の落ちた痕(葉痕)に目を近づけたい。そこにはまことに楽しい世界が展開する。

横浜キャンパスのいたる所にクズが生育している。葉は枯れ落ちているが、実(莢)が茎に残っており、その表面の毛が冬の日(太陽)を透かして金色に輝いている。さらに目を茎痕に向ければ、そこには妖精達の楽しい会話が聞こえてくるはずである。このクズ、春の新芽や花は山菜に、茎は細工物や布に利用される。私の受け持つ授業では学生がこの茎で筆を作り和紙に字を書く。クズは見て、食べて、使って楽しむのである。



クズ 葉が落ちると妖精が顔を覗かします。

マンリョウ 鈴の文様、いかがでしょうか。

ヤブコウジ 林床の真赤な実と葉が映えます。

キョウハグマ さて葉が用意はできました。

クワノキ 芽には金茶色のマフラーを幾重にも巻いています。

コナラ 壳を連想します。

カラスザンショウ トケにたすき、さて似合うでしょうか。

## 一般公開行事の御案内

- 第1回 母の会チャリティコンサート  
—子供達に大きな希望を—  
2007年2月10日(土) 14:00～  
新マーガレット・クレイク記念講堂  
全席自由 大人3000円(ペアチケット5000円)  
学生2000円(高校生以下)  
チェンバロ：崎川晶子  
リードオルガン：上畑正和 風笙：橋本薫明  
お話：神津カンナ(特別出演)  
主催：中高部母の会  
お問い合わせ先：電話 090-7711-3871  
メールアドレス toyoeiwacharity@yahoo.co.jp
- 小学部パイプオルガンコンサート  
2007年2月17日(土) 14:00～  
小学部講堂 全席自由 1000円  
演奏：学院オルガニスト河野和雄  
エンジェルリンガーズ  
・未就学児のご来場は、ご遠慮ください。

## 東洋英和女学院学院報 楓園 第47号

発行日：2007年2月5日  
編集：学院報編集委員会  
発行：学校法人 東洋英和女学院  
東京都港区六本木5-14-40  
TEL 03-3583-3325  
メールアドレス  
koho@toyoeiwa.ac.jp  
ホームページアドレス  
http://www.toyoeiwa.ac.jp/



## 二〇〇六年度後援会役員会報告

後援会より

二〇〇六年度後援会役員会が十月十三日に東京全日空ホテルにて開催されました。出席者数は、後援会役員が七七名、学院からは各部の代表者をはじめ二五名の先生方がご参加下さいました。

会は四部構成で、まず全体会①では横山巖後援会会長より挨拶があり、その後各部毎に八つの分科会で代表者の先生方と教育の現状などについて意見交換をしました。

全体会②では、最初に池田守男理事長

により後援会に対する挨拶と座長代理に就任した教育再生会議にける抱負が述べられ、その後分科会の報告を行いました。そして懇親会では役員と教職員がフランクに交流することができました。

分科会の報告で各部から次のような意見・要望が寄せられました。

- ・学院の危機管理体制の充実について
- ・登下校の安全確保について
- ・クラブ活動について
- ・学院の教育方針やカリキュラムを明確化することについて

各部の先生方からは、右の意見・要望に対し説明があり、教育現場の問題について活発な議論が行われました。

後援会は保護者側の観点から学院とこのような協議を重ね、お子様のより良い学習環境の整備を目指して今後も学院に協力していく所存です。